

塙保己一

江戸時代の国学者塙保己一（1746～1821）は7歳の時に失明し、15歳で江戸に出て兩富検校の弟子になりました。その後、賀茂真淵らのよき学者に指導を受け国学を研究し、寛政5年（1793）に幕府に願って和学講談所を設けました。また、全666冊にも及ぶ叢書「群書類従」の編纂刊行者として有名です。盲目でありながら、国学者として活躍し、わが国の国学史上に大きく貢献しました。9月12日には、塙保己一先生遺徳顕彰祭が行われます。



塙保己一記念館

平成27年開館。館内には塙保己一の遺品及び関係資料を展示し、保己一の業績をわかりやすく解説しています。また、展示品には母手縫いの巾着をはじめとして貴重な資料を展示しています。それらの遺品及び関係資料は県の文化財に指定されています。

- 開館時間
9:00～16:30
- 休館日
月曜、年末年始
- 料金
無料
- 電話番号
0495-72-6032



塙保己一旧宅

塙保己一が生まれてから15歳で江戸に上るまでの幼少期を過ごした家で、国の史跡に指定されています。建物は木造2階建て、屋根は入母屋造り、カヤ葺で、ほぼ旧観が保たれています。この地方によく見られる一般的な農家です。国指定史跡。



塙保己一史料館 社団法人 温故学会

塙保己一の偉業を顕彰するとともに、その膨大な遺産である版木の保存を目的として、国文学者・芳賀矢一、保己一の曾孫：塙忠雄、渋谷栄一らの主導により建設されました。かのヘレン・ケラー女史は保己一を深く敬愛しており、来日したときは真っ先にこの温故学会を訪れたといっています。



東京都渋谷区東
2-9-1
電話
03-3400-3226

